

入選

良いところは真似して

福岡県 篠山小学校 五年

村上 茉莉香

『縁の下の力持ち』。

この言葉は、私が今回出会った方にぴったりな言葉だと思います。私がこの方と出会ったのは、小学4年生ぐらいのときでした。私が朝、登校していると、犬の散歩をしている方がいました。朝のお散歩って、気持ちのいいだろうな、と私は思いました。ふと、飼い主さんを見ると、飼い主さんの手に、トンゴとビニールぶくろがあるのが見えました。

しばらく見ていると、犬のフンのほかにも、道に落ちた物を拾っていることがわかりました。

「犬の散歩もかねて、ごみ拾いをするって、一石二鳥だな」と、私は感心しました。

その日の朝は、「この町にこんな人がいるなんて、なんかうれしいな」と、いつもとちょっとちがう朝になりました。自分のためだけではなく、町の知らない人のために行動できるのは、すてきだなと小さな親切をありがたく感じました。

数日後も、ごみ拾いと犬の散歩の両方をしている方に会いました。その日も、その方はごみ拾いをしていました。でも、すべて手作業だし、一人で町のごみを減らすことってできるのかなあ、と思いました。私は、町がどれだけきれいになるのかとても気になりました。

私が町の変化に気づいたのは、何日もたったある日のことです。いつものように登校していると、なんだか町がきれいになって、すっきりしたような雰囲気になっていました。

「なんでだろう」と思ったら、何日も前に会った、あの方を思い出しました。「一人だけでこんなにきれいになるなんてすごい」と思い、思わず笑顔になるような気持ちになりました。

しかし、しばらくすると、あの方は姿を現さなくなってしまいました。毎日、ごみ拾いをしてくれてうれしいな、と思っていただけなので、今度は、私たちがごみ拾いをする番なのかな、と感じました。でも、私はちょっとぎもんに思いました。

ごみをそもそも減らさないうちから、ごみ拾いだけをしてもいいのかな。まずは、ごみをできるだけ減らすことから始めた方がいいんじゃないかな、と気になりました。しかし、いざやってみると、うっかり忘れて、コンビニでビニールぶくろをもらったりしてしまいました。

でも、だんだん、コンビニなどに行くときは、エコバッグを持って行こう、と意識して忘れずに持っていくようになりました。自分でも、ごみを少しでも減らせたことが実感できました。

今回のできごとで、ごみに対する意識が少し高まったし、自分も少しだけれど、ごみを減らすことができたのでよかったです。

あの方のように、一人では町のごみ拾いはできなかったのですが、今度、友達といっしょにチャレンジしてみたいと思いました。